

2002～2003年度 国際口-タリ-第2640地区

Inter city Meeting(第2組)報告書

御坊東口-タリ-クラブ
IM実行委員長 小池佳史

開催日 2003年2月1日(土)
開催場所 御坊商工会館、御坊市福祉センター
ホストクラブ会長 塩路昌雄
ゼネラルリーダー 大澤徳平パストガバナー
参加クラブ 海南RC、海南東RC、海南西RC
有田RC、有田南RC、有田RC 2000
御坊RC、御坊南RC、御坊東RC 計9RC

IM テーマ 「ロータリーに入会して良かった」

と思って頂けるクラブは、どのようなクラブなのか？
またそのようなクラブにするために、クラブとしてのどのような努力が必要なのか？クラブの活動は？

2月1日、IM 第2組は、大澤徳平パストガバナーをゼネラルリーダーとしてお迎えし、小島哲ガバナー、前田孝道直前ガバナー、瀬戸新一、楠公延、堤啓治、亀岡弘、水田博史、各パストガバナー、峠原忠夫、地庵省吾、各ガバナー補佐はじめ、地区役員の皆様のご参加をいただき開催いたしました。

第1部では、(広報、情報、規定)、ロータリー財団、米山奨学、社会奉仕、各委員会の4部門について、カウンセラー、インストラクターのご指導のもと、活発なご意見をいただき大変有意義な会議でした。

第2部では、開会式の後、今宮戎神社名誉宮司、津江孝夫様(大阪南RC)による(歴史に学ぶ「あきなひ」の倫理と職業奉仕)というテーマで、基調講演をいただきました。

当日は、今宮戎神社の福娘のお二人にも御臨席いただき、大変華やかに、また和やかに基調講演をお聞きすることができました。

基調講演の後、全体会議として、「ロータリーに入会して良かった」のテーマのもと、各クラ

ブの代表により、意見発表をしていただきました。多くの皆様のご意見を聞くことができ、これからのクラブ運営にとって大いに参考になった事と思います。

閉会式では、大澤徳平ゼネラルリーダーの総評に続き、小島哲ガバナーの謝辞、そして次回ホストクラブ、海南RC 会長、玉置尚徳様の挨拶の後、全員で「手に手つないで」を歌って、IM を無事終了致しました。

最後に、大澤徳平ゼネラルリーダーはじめ、パストガバナー、ガバナー補佐、地区役員の皆様、そして9クラブの会員の皆様には、IM にご出席いただき、ご協力賜りました事、厚く御礼申し上げます。



IM2組ホストクラブ会長挨拶



2組 IM 実行委員長挨拶

基 調 講 演

『歴史に学ぶ商いの倫理と職業奉仕について』

今宮戎神社名誉宮司 津江 孝夫 様
(大阪南RC)

今日のご依頼によりまして、福娘を2人連れて参りました。お許しを頂きたいと思っております。今日の話をするに当たりまして、「ロータリーに入会して良かったこと」について、話をしてほしいというご依頼をうけた次第でございます。ローターアクトの活動を通じて培いました人間関係、信頼関係について私の貴重な財産となっていますこととお話したいと思っております。ロータリーに入会しまして、最初に勉強しましたのは職業奉仕でした。



ロータリーが創立されました当時のロータリアンは、社会を愛する熱意においては、だれにも引けをとらない人達の集まりであった、と伝えられております。この優れた人達は学歴、財産、教養は、それぞれ違いましたけれども、企業の基礎に倫理的な信念を置いて、企業の発展を通じた社会づくりによって、社会に役立って行くという、厚い人類愛に燃えた人達であったと語り伝えられております。

それでは日本の歴史で、その職業観を調べてみますと、今から350年ほど前、徳川5代将軍綱吉の時代に活躍した、三井高利という人がおりました。三井グループのいわゆる創始者でございます。この人の商いに関する考え方は「薄利多売、現金掛値なしの商売によって、社会に奉仕し、客の信用を得る。」と表現されております。三井高利は、「自分の利益のために働くのではなく、客のために尽くし、商いを通じて社会に奉仕する。」言い換えれば、社会の奉仕無くして商売は無し、というふうに説いております。

次に石田梅岩という人がおります。「労働は人生において、人間が求める究極の境地で、自分一人の利益のために働くのではなく、社会のために貢献するものでなければならない。」そこで、自分の利益を目的としてお金を貯めること。いわゆる蓄財は、ケチで、本当の儉約ではない。本当の儉約というのは、他人の利益や幸福、つまり社会の利益になるものでなければいけない。と申しております。

従って「双方共に商売が成り立つということを、基本に考えなくてはならない。」こういつているわけでありませう。

次に大国隆正という人は、幕末から明治4年まで活躍した学者でございまして、天使を尊び父母を敬う、という真心を持って行動するのが一番の根本であって、その心を持って世を助け人を救う、世のために尽くし人のために尽くす。邪な心を無くし、欲望にとらわれることなく虚心坦懐に、ということでありまし

て、ロータリーでいう、「超我の心」というところは一緒でございます。「超我の心」で人間本来の真心を立て、「超我の心」で世のために尽くし、「超我の心」で人のために奉仕をする、これが人の心情(真心)である。わざわざ、世のために奉仕しようと思わなくても、家の仕事に一生懸命努めれば、世の中に奉仕する道につながる。わざわざ、人のために奉仕しようと思わなくても、自分の行いを慎めば自然と人に奉仕し、人に尽くす心にかなう。これはまさに社会奉仕、奉仕活動の根底について述べておるわけでございます。

次に大和屋圭蔵は、「売り手も買い手もお互いに穏やかな言葉をもって、売り手は買い手に、買い手は売り手の、先方に人の納得するよう丁寧に対応しなさい。」仮に自分の意志に背く事があっても、怖い顔つきをしたり、あるいは乱暴な言葉遣いをしてはいけませんよと言って、これもやはり商売の要諦を教えているわけです。

以上申しましたのが、江戸時代におきまして、商いの道に対する正しい道のあり方、商いの正しい道とはどうあるべきかという、倫理化と明確化の実践に努力した人の話です。

今日、日本が世界有数の国として発展して参りましたその根幹には、この三井高利や石田梅岩、大国隆正の経営哲学や企業倫理に、負うところは大きいのですが、そのことを日本人は感じていないのです。むしろアメリカの方が感じております。

ハーバード大学のロバート・N・ベラーという教授がおられました。この先生が次のように申しております。アジア、アフリカなどのヨーロッパに属さない民族のうち日本人だけ、培い伝えてきた信仰、風習、学問、芸術などの固有の伝統的価値観を保ちながら、巧みに近代化を達成して、今日世界の指導的立場にまで到達した理由の1つは、江戸時代の民衆の間に、石田梅岩などによって代表される、現実的、合理的な世界観が普及するとともに、その社会に、経済倫理が確立された事であった。このように申しております。

私も、ロータリーの職業奉仕の勉強のおかげで、こうした事を会得することが出来たことを、大変に幸福に思っている次第です。

次に、ローターアクトに関することについてお話を申し上げたいと思っております。

1977年から8年間にわたり、ローターアクトの活動に関わりまして、フェローシップ・スルー・ザ・サービスという、ローターアクトのモットーの通り、異業種の会員同士の間、利害のない友情が育ち、またとない人間関係が構築され、それが28歳を限りとして退会してから15年ないし23年を経ても、今なお親友として折に触れ、時に触れては集まり、友情を温めながらそれぞれの職務に尽悴する姿を見るにつけ、ロータリアンの一人として、ローターアクトの彼等の心に、ロータリーの理想の灯をともし活動に関わったことを、これ亦、私の誇りの一つとして大切にいたしております。

ローターアクター1人1人の心に、ロータリーの理想の灯を灯すことこそ、我々ロータリーの提唱の意義があり、また、そうすることがロータリーとしての使命ではないか、と思うわけでございます。

この事を通して、私は「ロータリーに入会して良かった。」そして、その事によって自分に勉強する機会を頂いた、という事に感謝致しております。